



※1: 外来でのフォローアップを行い、膿瘍形成を含めた増悪がないかの評価を実施する。

※2: 膿瘍径3-5cmでは患者の病態や、人的・施設的なドレナージの実施可能性を勘案し、個々に治療方針を選択する。